

発行者 公益社団法人 関西吟詩文化協会

公認 華洲会 (広報紙)

発行責任者 会長 濱田華亮
編集責任者 広報部長 竹本瑞鼓



「華」第61号 発行:平成27年6月15日

総本部報告	副会長に聴く 事業計画	2面
27年度役員構成		3面
本部人事	競吟会各部優勝者の声	4面
44回 競吟大会		5面
栗岡尚煌広報部長逝く		6面
会員数の状況	川西大和支部誕生	7面
華洲会新年互礼会		8面

主な記事

会長所感

華洲会会長

濱田 華亮



会員の皆様お変わりありませんか。目にも眩しい新緑の季節となりました。

今年、我が国は戦後七十年の節目の年にあたり、天皇、皇后両陛下がパラオ諸島を訪問され、今も多くは戦士が眠る島々や海また慰霊碑に、深いお祈りを捧げられました。その記憶の新しい方も沢山いるのではないのでしょうか。

さて、本会も創立五十周年を迎えます。十一月二十九日の記念大会に向けて実行委員を中心に準備を進めておりますが、一つ悲しいお話があります。

その記念大会に向けて、並々ならぬ情熱を燃やしておりました、広報部長の栗岡尚煌氏が昨年暮れに、ご逝去されました。痛恨の極みであります。

栗岡氏から最後に電話を頂きましたのは病院のベッドの中からでした。

呼吸が苦しいので長いお話はできませんがと恐縮しながらの会話でした。

記念大会の記事を最後までできないのが心残りですと、責任感が強かった栗岡氏が病床に臥しながら、その置かれた現実と、生きることへの望みの狭間の中で、呼吸を整え淡々と話す言葉に「清淡虚無」な人柄が偲ばれ胸に迫るものを感じつつ、万感の思いで聴き入りそれが最後の会話と成りました。私は今も深い喪失感のなかで、哀惜の情を禁じ得ない思いでいっぱいです。

さて、半世紀に亘り総本部の公認会として活動できるその源は、お互いが調和をはかり結束を重ねた結果ではないでしょうか。

又、忘れてはいけないことは、初代会長宮崎華駒先生、二代目会長佐々木華豊先生を中心に「温故知新」を発揮してその時代の時空を血となり肉となつて尽力を惜しまなかつた多くの先人の方々です。

五十年の歳月の中で十一月二十九日は、二度と巡つてこない「一語一縁」の世界です。また縁や絆も出会いがあつて生まれるもの、意義ある記念の一日にしましょう。

最後に、本会が百年の計を図るならば五十年は旅の途中です。

更なる未来に向かつて飛翔するためには次の若い世代に夢と希望を託して世代交代を図る。

其れこそが此の記念大会の大きなテーマでもあります。

歲月は人をまたず

先の話と想ううちに

大会はすぐに来ます

記念大会第一次予算可決

華洲会定期総会 (5月6日)

平成27年度

事業方針・予算が決まる

華洲会の活動の方針を決める平成27年度定期総会が5月6日(振替休日)午後1時から大東市立市民会館で開催された。議事は竹本瑞鼓常任理事の議長のもと、執

行部提案の26年度事業報告・収支決算、27年度本部基本方針・事業計画・予算など11件の議案すべてが全会一致で可決された。

濱田華亮会長は挨拶で、「ゴールデンウィーク最終日、年に一回開かれる総会です。この場が華洲会の最高意思決定機関です。50周年大会の成功に向けて建設的な意見を出し合つて夢がかなうようにしていただきたい」と述べた。

議案の中で27年度華洲会本部基本方針・計画案を小寺竜副会長が(①誇りと責任②人材の育成③報連相の徹底)と読み上げ全員で確認した。

又事業方針では重点課題では、「50周年記念大会の成功」をメインに、「各支部一教室以上の教室を増やす」「新指導者の育成と指導者の指導レベル向上を図る」「皆の知恵と力を結集する」と掲げた。

事業計画では、本年11月29日(日)開催の華洲会50周年記念大会への成功に向けて総力を傾注するため、例年開催の錬成会、競吟大会は中止とするとされた。事業日程では総会当日午前中開催の前期昇段試験と9月23日(祝)開催の後期昇段試験の開催とが決定された。

記念大会第一次予算では、記念大会積立金88万円余りを取り崩し一般会員が参加しやすいように一般会員の参加費一人当たり7000円とし、270名の参加を見込んでおり、理事以上30名来賓90名を見込み、総勢880名の盛大な記念大会を想定している。

総会日の午前中開催の、前期開催の昇段試験受験者数は例年少数であったが、本年は本部の昇段規定の見直し等もあつて25名の受験者であった。(総会事業計画など2面に)

総本部報告と「挨拶

名誉会長 山口華偉

濱田会長のもと、

心ひとつに大会成功を



成を置いては在り得ません。私の関吟会長としての任期中の最重要課題は「人材の育成」であり是非とも成功させたいと思っております。

現在、関吟の会員は13728名で対前年比マイナス4% 579名の減となっております。華洲会は384名(子供28名)で23名の減少となっております。

増員の為には、本部として常々お願いしていますが、各支部で教場の数を増やしてほしい。これには指導者の養成が必要と考えています。組織の力を維持継承するためには教場の数を増やすこと。新年度から新指導者育成を目指して「東明未来塾」を開設いたします。10年後を視野に入れ

たものです。年齢は問いません。「教学相半ばする」、意欲と情熱のある人をお待ちいたします。300名程度の指導者養成をやりたい。華洲会からも大いに参加願いたい。

また、新人用に新教本を発行して行く予定です。従来、初段受験の吟題が難しいと言われていますが、この新教本の20題から出題して行きたい。

関吟会長になって2年間人材育成を重点的にやってきましたがこれからも任期を全うするまで続けてゆくつもりです。華洲会の50周年記念大会も人材があつてこそ出来るわけで、記念大会を濱田会長の下、成功裏に終わってほしいと願っています。

総本部の役員についても、理事候補15名くらいを内閣府の規定により定めた規約にそつて養成していく必要があります。

50周年大会に向けてカウ

ントダウンが始る。日にち会場は決まっていますが、式典、構成吟の詰めなど大忙しです。副会長先生に意気込みをよせていただきました。

50周年を成功裏に

副会長

政安恵豊



副会長 という大 役を頂い て早一年、 何もわか らないま

ま創立50周年を準備となり ました。

諸先輩の先生方に色々ご 指導を仰ぎながら動いている つもりですが未だ未だ未熟で ご迷惑を多々おかけしています。 今、目前にすべきことは50

周年記念大会を会員の皆様と 共に成功裏に納めることが、 歴代会長先生への恩返しと心 がけます。是非ご協力お願い いたします。

大会煮詰まつて来ました

副会長 岡島彩鼓



常任理 事会に於 ける役員 の選考も 煮詰まり、 いろいろ

五十周年記念大会の企画は一 歩一歩前進してまいりました。 先日、太閤園にての構成吟 のミニリハーサルに参加。

開演を告げる今迄目にした 事のないクリスタルボウルと

の出会い、スクリーンに写し 出される映像の迫力...いや が上にも気持ちが高揚してま いります。

「きつと素晴らしい大会が 出来る」と確信いたしました。

役員は勿論の事、で もやはり会員の皆様のご協力 なくしては決して成功への道 を歩めるものではありません。

大会に向け会員の皆様の暖 かいご支援とご協力を切にお 願いたします。

華洲会事業日程

- 5月6日 前期昇段試験(済)
- 9月23日 後期昇段試験
- 11月29日 50周年大会
- 1月11日 新年互礼会

(四条曙神社)

各部署事業計画

△教養部

- ①三浦華洲先生遺稿集の勉強
- ②50周年記念大会構成吟への協力

△研修部

- ①本部研修会の復講(新体系詩・和歌・俳句・新教本講習等)
- ②本部研修会の復講(28年度課題詩、師範・準師範・師範代)
- ③吟詠研修会(発声等吟力向上研修)

△女性部

- ①50周年大会における記念品購入と配布

△青年部

- ①50周年大会に青年部・スタッフとして参加
- ②友好青年部大会に参加
- ③総本部青年部大会への参加(構成吟・企画参加)準備・受付

△広報部

- ①公認華洲会として広報誌掲載記事の幅を広げ、吟詠に役立つ記事、社会貢献に資する記事を掲載
- ②組織内に在っては各専門部及び各支部の活動報告を記事掲載する
- ③年2回の発行を目途

△企画部

- ①組織の活性化案を提案(会員相互の緊密化策)
- ②吟詠歌謡研修会の開催

その他

- 新支部設立 助成金支給
- 川西大和支部 関吟本部敬老祝い
- 喜寿 田中尚観 華洲会 敬老祝い
- 古稀 永井尚麗(川西北)
- 浅沼浩(川西豊友)谷上正彦(同上) 政安紘太(同上)

平成27年度 華洲会役員構成

◇ 支部長及び理事

◇ 本部役員

◎印は本部役員

支部名	資格	氏名(雅号)	備考
四条噺	師範	下美華岡	支部長
	師範	◎中道篁華	妙見分会講師
楠の里	総師範	◎小寺竜鵬	支部長
	師範	高上馬竜曄	津の辺分会長
四条楠公	師範	◎南 桜紅	支部長
雋詠寺川	総師範	◎大木華蕃	支部長 双葉分会講師
	師範	園部奎雋	高槻分会講師
	師範	末延喜美子	高知分会講師
雋詠京都	高師範	奥山紅雋	分会講師
	師範	高谷兼妙	分会講師
雋詠伊賀	準師範	市木紅鐘	支部長
	高師範	町 綏雋	分会講師
	準師範	岡森鵬雋	分会講師
京阪楠葉	準師範	嶋澤俊雋	支部長
	師範	藤原克晟	支部長
	師範	辻 克泉	宇治木幡分会講師
学園	師範	坂本克綜	ソレイユ分会講師
	師範	助永桃鞠	支部長
	総師範	◎種田紅鞠	南津の辺分会講師
野崎観音	高師範	◎本田箏勲	支部長
	師範	◎高橋箏瑛	春秋分会講師
勢多	高師範	寺田将曄	支部長 将曄分会講師
	総師範	◎川村将楓	将楓分会講師
鳳吟大江	上師範	◎吉田鳳裏	支部長
燐 吟	師範	東 燐光	支部長
	師範代	河野燐鞠	燐吟第一分会講師
指 月	総師範	◎林 華環	支部長
清和台	師範	◎森 蘭豊	支部長 分会講師
川西豊友	上師範	◎吉田泉豊	支部長 豊友こども分会講師
	上師範	◎田中尚叡	分会講師
	準師範	辻 總叡	支部長
多田東	師範	◎有馬尚瑤	北陵分会講師
	師範	◎遠藤尚豪	秋桜分会講師
	師範	山田華昱	支部長
丸の内中央	上師範	◎竹本瑞鼓	丸の内南・りんどう分会講師
	師範	竹内峰鼓	明峰分会講師
	師範	山下心鼓	支部長
川西北	高師範	◎中村尚儒	大和はなみずき分会講師
	上師範	◎中村尚瑛	木曜分会講師・ 子供さんたクラブ分会講師
	上師範	永井尚麗	子供さんたクラブ分会講師
	4 段	檀村儒雲	支部長
川西大和	総師範	◎岡島彩鼓	牧の台分会講師
	師範	上阪彩彪	支部長

役職名	資格	氏名(雅号)	支部名	備考
名誉会長	総帥	山口華雋	雋詠寺川	
会長	総師範	濱田華亮	京阪楠葉	
常任相談役	総師範	深町華燐	燐 吟	
〃	総師範	小野華篁	四条噺	
〃	総師範	大上華鞠	学園	
〃	総師範	大木華蕃	雋詠寺川	
〃	総師範	中谷将鳳	勢多	
〃	総師範	林 華環	指 月	
副会長	総師範	種田紅鞠	学園	事務局担当
副会長	総師範	小寺竜鵬	楠の里	会計部長
副会長	総師範	政安恵豊	川西豊友	女性部担当
副会長	総師範	岡島彩鼓	川西大和	教養部長
相談役	総師範	苗加竜桜	楠の里	
〃	総師範	積 華潤	住 道	
〃	高師範	本田箏勲	野崎観音	
〃	上師範	田中尚叡	多田東	
参 与	高師範	今井魄雋	雋詠伊賀	
〃	高師範	町 綏雋	雋詠伊賀	
〃	師 範	有馬尚瑤	多田東	
常任理事	総師範	川村将楓	勢多	
〃	高師範	奥山紅雋	雋詠京都	研修部長
〃	高師範	中村尚儒	川西北	事務局長
〃	上師範	竹本瑞鼓	丸の内中央	企画部長・ 広報部長
〃	師 範	中道篁華	四条噺	
〃	上師範	中村尚瑛	川西北	事務局員
〃	師 範	高橋箏瑛	野崎観音	
〃	師 範	森 蘭豊	清和台	
〃	上師範	吉田鳳裏	鳳吟大江	
〃	上師範	吉田泉豊	川西豊友	女性部長
〃	師 範	野口箏香	野崎観音	事務局員
〃	師 範	南 桜紅	四条楠公	事務局員
〃	師 範	遠藤尚豪	多田東	
〃	師 範	坂本克綜	京阪楠葉	副事務局長
〃	師 範	藤原克晟	京阪楠葉	
〃	準師範	嶋澤俊雋	雋詠伊賀	事務局員
理 事	準師範	小野篁晴	四条噺	青年部相談役
〃	師範代	嶋崎瑛籙	野崎観音	青年部長

太字は新任

- ☆ 事務局長 中村尚儒
- 副事務局長 坂本克綜
- 事務局員 野口箏香、南桜香、中村尚瑛、嶋澤俊雋
- 小島進一郎
- ☆ 会計部
 - 部長 小寺竜鵬
 - 副部長 森山桜彩
- ☆ 研修部
 - 部長 奥山紅雋
 - 副部長 高橋箏瑛
 - 部員 中道篁華、箱田儒海、檀村儒雲
- ☆ 教養部
 - 部長 岡島彩鼓
- ☆ 広報部
 - 部長 竹本瑞鼓
 - 副部長 辻總叡
 - 会計 齋田儒隆
 - 部員 山下心鼓、谷叡雋
- ☆ 女性部
 - 部長 吉田泉豊
 - 副部長 森蘭豊
 - 会計 岡部幸子
- ☆ 青年部
 - 部長 嶋崎瑛籙
 - 副部長 今井彩黎
- ☆ 企画部
 - 部長 竹本瑞鼓
 - 副部長 藤原克晟
 - 部員 田中尚叡、岸場鳳鶯

各部担当役員

本部役員人事

50周年大会を目前に控えて

小幅な移動に留まった。

先ず昨年末の栗岡尚煌広報部長逝去に伴い空席となつて
いる広報部長に前部長の竹本瑞鼓(丸の内中央支部)氏(企画部長兼務)を充て、政安恵豊氏を女性部担当副会長とし、
新部長に吉田泉豊(川西豊友支部) 副部長の昇格とした。

新理事には藤原克晟(京阪樟葉支部) 氏を企画部副部長として、嶋澤俊雋(雋詠伊賀) 氏を事務局員として充て、50周年に向け態勢固めを行った。

前途多難ですが頑張ります

女性部長 吉田泉豊



4月の常任理事会で突然女性部長候補として指名され、総会において正式に承認されました。本当に今も晴天の霹靂の思いでいます。

長きに亘り政安女性部長がされておられたので、いづれ後を継いで受けなければと思つていましたが、創立50周

年を目の前に何から手を付けていくのか、私にとつては前途多難です。

諸先輩の先生方を始め皆様方のご協力の下に頑張り、努力いたします。

皆さんと共に頑張りたい

常任理事 藤原克晟



この度、新常任理事就任のご推挙を頂き、本当に有難うございます。

今後諸先生方のご指導を仰ぎながら、華洲会の基本方針に沿って「会員増強と人材育成」等の目標達成に向け努力していきたく思っています。

次に、「報連相」基本としながら、会員相互の繋がりを密にして行きたく思っています。また、会員以外の縦横・横断的に人的交流を深め、親交を深めるとともに、吟に対して切磋琢磨しながら、華洲会発展の為に貢献して行ければと思つています。

そして、私事になりますが、吟力向上の為に努力したいと思つています。今以上ももっと吟を好きに成りたいと思つています。

此のことは(好きに成れば成る程、人に薦めたい。詩吟を未だ知らない方々に伝えたいとの気持ちで湧く)。最終的には「会員増強と人材育成」にも繋がってくるのではないかと思っています。

最後になりましたが、私に對するお叱りでも苦言でも注意事項でも何でも良いです。いろいろなお叱り等を頂ければ幸いです。

出来ることは何か

常任理事 嶋澤俊雋



この度常任理事に推薦され、就任することになりましたが、

その責任の重さを感じ緊張しております。吟界も世間一般と同様に高齢化が進行しており、組織の維持・活性が大きな課題となっていることは皆様ご存じの通りで華洲会においても最大の課題ではないかと認識しております。先輩諸先生方のご指導を得ながら、

自分は何が出来たのか、自分が出来ることは何かを日々考へながら当面事務局員として自分の職責をはたして行きたいと存じております。

競吟 各部優勝者の声

△新人の部(一部) 憧れ成就



西川慶子 私の若き頃亡母が吟を習っていた。その

せいかな笹川さん方の吟じられしている姿をTVで拝見したりして、憧れてもいました。その吟を縁があつて、先生方のご指導を頂き私も吟じさせて頂くようになりました。未熟な私が新人で優勝とは、とても信じられませんでした。これからも努力をして上手になりたいと願っています。

△新人の部(二部) 白帝城に籠城



坂根英生 2年前に仕事を離れ地域との繋がりが増え

てきました。その交流を通じて岡島先生の教室に通い始めて1年になりました。仲間にも恵まれて練習日を持ち侘びている昨今です。審査委員長の御講評に一つの漢詩をあるレベルで吟ずるには3年は必要とのお話があり、重く受け止めました。当分は白帝城に籠城して吟の向上に努めたいと

△初級の部(一部) 感動の初優勝



長尾 孝子 詩吟を学ぶ様になつて早四年になります。始めはな

かなか声が出なく(特に高い音は顎をつきあげていました)吟ずるには程遠い感じでした。先生の熱心なご指導のお蔭で、何とかお腹から声が出るようになりました。漢詩を理解し、声に出し、詩吟の難しさと、少しだけ楽しさが分かってきた様です。そんな時の今回の受賞は、天にも昇る嬉しさでした。

△初級の部(二部) 山で発声練習



東野 明 前回新人の部 今回初級の部と二度優勝出来たことは

大変うれしく思います。詩吟は日々の練習が大切だと思ひ発声と詩吟をカラオケボックスと近くの山で練習しています。今回練習できたのは、日頃中村先生の指導のもとで厳しい練習の成果と感謝しています。

第44回 華洲会 競吟大会 (平成27年2月22日)

第44回 華洲会 競吟大会

熱吟 新会場に響き渡る

Table with 7 columns: 出吟区分, 氏名, 所属支部, 氏名, 所属支部, 氏名, 所属支部. Rows include categories like 新人の部, 初級の部, 上級の部, 師範代の部, etc.

入賞者

- List of award winners including 甲斐五郎, 丸の内中央, 福田和央, etc.

初級の部(二部)

- List of winners for the Junior Division (2nd section) including 柏原美佐子, 樋口智裕, etc.

上級の部(一部)

- List of winners for the Senior Division (1st section) including 中谷四郎, 吟大江, etc.

師範代の部

- List of winners for the Teacher's Representative Division including 井元信雄, 樟葉, etc.

準師範の部

- List of winners for the Assistant Teacher's Representative Division including 竹内里志, 入口みどり, etc.

師範以上の部

- List of winners for the Teacher's Representative and Above Division including 岡陽子, 阪樟葉, etc.

優勝者の一言

△上級の部(一部) 平野りさ



詩吟に出会って6年が経ち、その間に

結婚、出産と私生活はガラリと変わりましたが、現在岡島先生宅に月に2回、子供と一緒にレッスンに通わせてもらっています。おかげで以前と変わらず詩吟を続けることが出来ています。子育てしながら趣味を続けられることや周りの方々に恵まれたこの環境に感謝しながら、これからも練習に励みたいと思います。

△上級の部(二部) 中村 陽子
ご指導の賜物
第四十四回競吟大会で優勝のトロフィーをいただいたきありがとうございました。

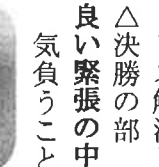


私は九年前故郷にゆかりの「泊天草洋」を教えていただきたくて、田中尚毅先生の門を敲きました。でも、とても難しい。

巻頭言を皆で唱和し黙祷では亡き恩師 佐々木華豊 先生や亡き友に「今日は頑張るか



ら見守って」と胸に誓って壇上に立ちました。お蔭様で師範以上の部で優勝、華洲会杯を頂きました。長い道のりでしたがやとと恩師に報いることが出来ました。詩吟の心は力なり、仲間と吟を語り健康管理、雑談と話は尽きなくストレス解消しています。



良い緊張の中で 嶋崎樹里
気分うことなく臨めたことが、今回は良い結果になったと思います。います。いつもたくさ

△師範以上の部 吉田京子
胸に誓って壇上に

んの方から声援やアドバイスを頂いてばかりで、何も応援られていません。その分、気が入るはずなのですが、華洲会では良い緊張感とともに安心感を得られ「吟を楽しもう」という気持ちで吟ずる事が出来ました。一人で黙々と取り組んでも視野も感性も狭くなるばかりで、疲れてしまいます。周りの方との交流が原動力になっています。

平成26年12月27日

栗岡尚煌広報部長

ご逝去

活躍の時代を偲び
思い出を綴っていた
だきました。

栗岡広報部長を偲ぶ

副会長 種田紅鞠

今年一月栗岡さんの訃報を受け、びつくり暫く声も出ず、深い悲しみが、走馬灯の如く賭け廻りました。

栗岡さんとはお会いしても、恰幅の良い方だという印象で、ご挨拶程度でしたが、広報部長として活躍されるようになり、私も事務局として原稿校正等でお話をする機会が多くなりました。口数は少ない方で、真面目でいつもこやかに、冗談交じりの話しぶりで、場を和ませる楽しい方でした。広報部長として「華」発行に際しての情熱と使命感に燃え頑張って頂いていました。特に50周年大会の「華」作成には、責任感と行動力で力を注ぎ、昨年入院中にはパソコンを持ち込み、疲れた体で編集されていたそうで、改めて



いつも穏やかで
快活な栗岡さん

強い責任感に涙があふれました。

三月の常任理事会開始前に、栗岡さんに菊の花を役員が一輪づつ献花させて頂きました。御苦労に対する感謝とご冥福をお祈り致しました。

栗岡さんが亡くなられた事は、華洲会にとつて大損失です。創立50周年大会にご一緒できないのは残念ですが、栗岡さんの功績と教えは脈々と後世に引き継がれる事でしょう。

「栗岡尚煌先生を偲んで」

川西北支部 中村尚瑛

爛漫と咲き誇った桜の花があつと言う間に散ってしまふかの如く、栗岡さんが私達の前から風のように去って行かれました。今も深い悲しみの中に日々が過ぎて行きます

思い起こせば、二十年前、当時地元コミュニティの広報部長だった栗岡さんを詩吟教

室にお誘いしたのが始まりでした。

その日から、本当に沢山の楽しい思い出がありすぎて、とても書き尽くせるものではありません。栗岡邸でのお食事会や一泊旅行、ご夫婦で一緒下さった箱田君の東京での吟剣決勝大会。

一緒に歩いた浅草仲見世通りは今も賑やかでしょう。栗岡さんは、支部の皆さんだけでなく、本当に多くの方々に慕われ、愛された方でした。春まだ浅い三月初旬、川西地区の先生方の熱いご希望で偲ぶ会を催しました。

栗岡さんのお好きだったお店で遺影を飾り、ママさんの手料理を頂き、ご冥福をお祈りしましたが、本当に大切な仲間を失ったという寂寥感を



川西北支部の仲間とともに、奥様も

全員が感じていたと思います。命の灯が消えるその日まで、華洲会の広報部長として「華」の発行を気にかけてられ、病室にまでパソコンを持ち込んでおられたお姿に本物の記者魂を見た気がしています。

栗岡先生を偲んで

川西北支部 鮫島秀

先生との出会いは五年前になります。ある日、散歩をしておりますと、先生がベンチでイアホーンを着けて手元のチラシに目を通されてい

「自治会へ募集案内の配布をお願いします」との問いに、「教室を開きます。鮫島さんもお願ひですか」「都合がつけば」とのいい加減な返事。あくる日、ポストに二枚の募集案内、誤配かとウラを見ますと先生より「お待ちしております」の一言。

「川中島」に始まり、数多くの詩吟を教わりましたが、一向に上達しません。ただ、亡くなられる一年程前、昇段試験、川西競吟に向けていつもとは違う練習というよりは特訓、繰り返し、繰り返し吟じる内に、かすかなヒントを得たように思います。お蔭様で

初めて決勝へ進出することが出来ました。ささやかな恩返しが出来たと思っております。詩吟だけでなく、先生を通じて町内の多くの方々、また川西北支部、等の皆様と知り合うことが出来ました。詩吟、また人との交流を教えて下さったことに大変感謝をしております。

さわやかな風 吹き抜けた！
広報部長 竹本瑞鼓

平成19年2月竹本が華洲会広報部長を受けた時、すでに広報部で活躍中の編集担当の栗岡さんとコンビとなりました。そして私が見たものは、彼の企画能力の高さ、発想の柔軟さ、掲載記事の先見性などに驚かされるばかりでありました。彼の活躍は、広報紙面の企画から原稿依頼、独自取材、原稿執筆、原稿整理、編集、写真撮影、紙面レイアウト、印刷発注、華洲会員への発送まで、全ての分野に亘って部員の中心になり広報部を引っ張っておられた。

業務は大変でしたが一緒に仕事をしていたが、充実感がありました。これもすべて彼の人間性と包容力の賜物と感謝しています。

26年度末の会員の状況

一般13名、師範代4名、学生3名減などの影響で合計

対前年23名の減で4月1日現在会員数435名となった。しかし、特筆すべきは、平成21年5月の川西豊友設立以来の新支部、川西大和支部

(会員21名 講師…岡島彩鼓 支部長…上阪彩彪) 誕生で、今後の増員が期待される。

更に、雫詠寺川支部では新分会、高知分会(11名)も誕生しており、華洲会競吟大会でその熱気を目の当たりにしている。

華洲会 平成27年度4月1日現在会員数										
支部名	総帥	総師範	高師範	上師範	師範	準師範	師範代	一般	学生	合計
京阪楠葉		1	1	1	7	2	3	15		30
樺吟		1			1	7	3	9		21
指月		1						7		8
雫詠寺川	1	1	1		2	2	4	28	2	41
雫詠京都					1	1	2	14		18
雫詠伊賀			2		2	4	2	11		21
野崎観音			1		3	8	1	7		20
学園		2			1		3	6	1	13
住道		1			1	1		2		5
楠の里		2			1		1	7		11
四条楠公					2	1	2	4		9
四条暁		1			2	1	5	6		15
津田										0
勢多		2	1			1	2	11	2	19
鳳吟大江				2	1	1	3	11	3	21
清和台					1			5	6	12
多田東				1	2	3	3	38		47
丸の内中央				1	2		6	13		22
川西北			1	4	1		2	20	10	38
川西豊友		1		1			2	13	3	20
川西大和		1			1	3	1	14	1	21
合計	1	14	7	10	31	35	45	241	28	412
26年度会員	1	14	7	11	32	36	49	254	31	435
増減	0	0	0	△1	△1	△1	△4	△13	△3	△23

優秀吟者を擁する新支部「川西大和」誕生

総本部承認 平成27年2月14日 丸の内中央支部から分離独立

新春恒例支部初吟会にて

独立に当ってご挨拶

岡島彩鼓

新年初吟会のこういう和やかな場面を毎年開催し友好の輪を広げて何十年参りました

が私ども牧の台分会がある程度の人数がまとまりまたこともあり、今度皆様から別れまして、独立をさせていただきます

たいと思っております。

この件につきましては、あらかじめ、竹本先生、竹内先生にご承認を頂いております。

分離独立する理由として

ましては、わたくしたちが抜けた後も皆様の丸の内中央が

支部として十二分に、人数的にも十分であると確認し、若

い指導者を養成すると言う点

からも、そして独立を牧の台

分会の会員さんに諮りました

ところ一応了解を得ております。

もちろん今まで通りたどえ

独立しても友好支部として未

永くお付き合いを頂きたいと

願っております。また丸の内

支部を作られました河南創鼓

先生の御意志に背かないよう

す。

に一生懸命努力してまいりま

して今以上に成果を出したい

など思っております。

応援のコメント

竹本瑞鼓 丸の内支部講師

丸の内中央支部は故 河南

創鼓先生が平成8年4月20

日に鼓が滝支部から分離独立

して立ち上げられ、活動して

まいりました。

平成18年1月には支部創

立10周年開催し順調な歩み

を確認したところです。そし

て、現在支部員数も40名を超

え活発に活動しています。

この度、丸の内中央支部か

ら川西大和支部として分離独

立されますが、今後ともいま

で共に活動をしてきた友好の

絆を確かめ合いながら共に歩

んで行きたいと思っております。

川西大和支部発足にあたって

支部長 上阪彩彪

音楽の多様化により古典芸

能の部類に入ろうとする詩吟

界にとって、会員増強は緊急

の課題であり至上命令でもあ

る。一人でも詩吟人口を増や

す為には様々な努力がなされて

いるが、若者に漢詩の世界を

理解してもらうには時間がか

かり過ぎる。

しかし高齢者の方々には比

較的勧誘がしやすい。ここ川

西の大和団地はベッドタウン

として成長してきた川西市の

なかでも、最も早くに開発さ

れてきただけに住民もや、高

齢化し、退職者も他の地域に

比較して多く、当地のコミュ

ニティでの詩吟に対する関心

度は他の地域に比べて高いよ

うに思われる。しかしいざ勧

誘となるとなかなか思うよう

に加入してもらえないのが現

状である。

そのような中で会員増強の

為の広報活動を積極的に展開

してくれた会員の努力により、

この2年間の間に10名の新

入会員を迎え、ここに新しく

川西大和支部を結成できた。

これも実力派の岡島講師と会

員の努力の賜物と感謝したい。

今後ともより身近に行動に

移して行きたいと気持ちを新

たにしつつ、支部の発展的運

営に努力したいと思う。



華洲会 新年互礼会

平成27年1月12日、華洲会会長濱田華亮先生を始め山口華雋関西吟詩会長ら役員先生26名が相集い四条巖神社に参拝し、御祈禱をお願いするとともに、奉納吟「宝船」吟じ、華洲会50周年記念行事の成功と会員の獲得を祈願した。その後、場所を移し懇親会を開催



懇親会冒頭、挨拶に立った濱田華亮会長は、「新年と言っても喜びは七割です。いつも永年華洲会の広報部を支えて頑張っていた栗岡広報部長が昨年末、逝去されました。

楠葉支部で、辻克泉さんが教場を立ち上げ現在5名を教えていますと紹介。参会者は拍手でエールを贈った。引き続きあいさつに立った山口華雋関西吟詩会長は「本部は人材育成に力を注いでいる。

た。残念です。しかし我々は50周年の記念大会に向けて皆が力を合わせて進まねばなりません。大会は役員が主役です。また会員増強に向けて頑張りましょう。挨拶。さらに京阪

一人でも二人でも指導者を養成したい。若い師範代・準師の皆さんに立派な指導者に育ってもらおう事。青年部・幼少年が未来の関西吟詩を支えてくれるように育てる事。これは華洲会も同じこと。そして力を一つにして11月29日の華洲会50周年は成功裏に実施しました。う」と挨拶。
21世紀の詩吟は之で良いのか。若者に受ける吟詠は如何にあるべきか。「詩吟のリズム大間・小間などテンポを再度考える。例えば絶句2分をもう少し早くする。これも一案。など夢のある会話で盛り上がったひとときでした。

平成26年度競吟成績7月以降

- ★大阪府連(一部)吟士権大会 6月22日 12位 黒川克心 (京阪樟葉)
- ★愛国詩吟連盟(一部) 9月21日 一般入賞・今井彩梨 (丸の内中央) 堀彩刻 (丸の内中央) 嶋崎瑛霏 (野崎観音) 黒川克心(京阪樟葉)鳥居利江 (雫詠伊賀)
- ★関吟大阪地区連合会(一部) 初級 決勝・全国・若林成和 (輝吟) 決勝・小橋美智子(輝吟) 上級 決勝・全国・箱田稔(川西北) 榎村節雄(川西北) 準師範 決勝・全国・入口みどり(雫詠)

- 詠寺川) 決勝・山下智之(丸の内中央)藤原忠尚(京阪樟葉)
- ★関吟大阪地区連合会(二部) 指導者級) 8月31日 決勝・全国・黒川克心(京阪樟葉)中村尚瑛(川西北)
- 決勝大会 3位・黒川克心 (京阪樟葉)
- ★関吟新人中間層全国大会 11月9日 上級の部 3位・鳥居利江(雫詠伊賀) 8位・箱田稔(川西北)
- ★関吟全国指導者級吟士権大会 12月21日 師範代 準優勝・堀彩刻(丸の内中央) 準師範 優勝・今井彩梨(丸の内中央)
- ★吟剣全国吟詠コンクール 9月15日 東京決勝大会 5位 箱田慎也(川西北)
- ★日本吟詩総連盟 全国大会 優勝 黒川克心(京阪樟葉)

前期昇段 5月6日受験者

- ★初段 磯田孝潤(鳳吟大江) 中根達博(丸の内中央)中村久美子(京阪樟葉)西田惠美(野崎観音) 前田初美(同) 小山正子(川西北) ★二段 石井昭二(丸の内中央) 甲斐五郎(同) 川村和子(京阪樟葉) ★小島進一郎(川西北) 東野明(同) 橋本眞三(同) 岩崎淳子(丸の内中央) 吉岡元文(同) 西田静代(勢多) 野村公子(同) 小笹久

夫(野崎観音) 柏原美佐子(同) 河原秀偵(輝吟) 山脇浩二(同) ★四段 中谷四郎(鳳吟大江) 岡部幸子(多田東) 仲元幹雄(同) 國宗佳寿子(勢多)

【新企画】吟詠川柳募集!

日ごろ、吟力アップに、会員獲得にご努力感謝します。これを、五七五に表現してください。 《投稿期待》

「詩吟だと 外出多し 健康だ」 忠量

「健康に 詩吟どうです? 口ぐせに」 瑞枝

【編集後記(華61号)】

再度広報部担当として 栗岡尚煌広報部長が平成26年12月に急逝されたのを受け、急遽広報部長として再登板しました。栗岡氏とは平成19年4月から5年間ともに広報部の部長・副部长としてコンビを組んで活動しており、25年から広報部長として、更に意欲的に活動されておりました。しかし病に勝てず「華60号」の編集途中、途中引継ぎを行いました。今後彼の広報に対する意気込みを、華洲会会員の活躍を受け、代わって体現できるように努めてゆきたいと思っております。 竹本瑞枝 乞許・数字縦横変換未済